資 料 4

登米圏域
（登米市）

～～登米の豊かな自然・食・文化を五感で体験・発見・実感～～

登米圏域について

○　平坦肥沃な登米耕土が広がり農畜産業が盛んな地域である。北西部には全国有数の渡り鳥の飛来地でラムサール条約湿地の伊豆沼・内沼のほか，ボート競技の国際大会が開催可能な長沼がある。東部には一級河川の北上川が流れ，豊かな水辺がある「水の里」である。また，東部の北上山系には豊かな森林が広がり，林業・木材産業が盛んな「森の町」でもある。

○　「みやぎの明治村」には，明治時代に建造された高等尋常小学校が現存するほか，水沢県庁舎や警察署が当時の面影を今に伝えている。また，ユネスコ無形文化遺産に登録された「米川の水かぶり」などの伝統行事や神楽，登米能などの伝統芸能が，地域住民の手により受け継がれている。

○　圏域の西境をＪＲ東北本線（３駅），南境をＪＲ気仙沼線（４駅）が通るが接続する路線バスは限られている。また，中央部を横断するみやぎ県北高速幹線道路は，東側を通る三陸沿岸道路と結ばれており，今後は，東北自動車道との早期接続が待たれている。

圏域の観光の現状

○　ＮＨＫ連続テレビ小説「おかえりモネ」の舞台として全国での認知度が向上したが，新型コロナウイルス感染症の影響で，圏域を訪れる観光客数は低迷している。

○　一方で，舞台地として全国に紹介されたことで，圏域の自然・食・文化が再評価され，地元住民をはじめ県内や隣接県からの来訪者も徐々に見られるようになってきた。

○　マイカーを利用した日帰り観光が主流で，長時間の滞在や複数日滞在する観光客が少ない。

圏域の観光の課題

○　豊かな自然・食・文化の観光資源としての磨き上げと活用促進

○　感染症に対応した受け入れ体制の整備と誘客促進に向けたより効果的な情報発信

○　圏域内に広く分布している観光地の周遊を促す仕組みづくり

圏域の施策の方向性及び取組

＜計画期間で対応が必要な取組＞

○　地域に根ざした団体や農林業者等と連携した体験型の観光コンテンツの開発

○　歴史・文化など，各分野の熱烈なファン層を意識したインスタグラム，ツイッター等の様々な媒体を活用した情報発信の強化

○　ウイズコロナ・ポストコロナに対応した観光地づくりとキャッシュレス決済等デジタル技術の活用による旅行者の利便性の向上

○　広域連携の推進による圏域外からの誘客促進と圏域内の観光地を周遊する機会の創出

＜中長期的に対応が必要な取組＞

○　既存の観光資源の更なる磨き上げや新たな観光資源の掘り起こし

○　圏域の自然・食・文化を維持・継承し，その魅力を伝えられる人材の育成

長沼フートピア公園・
長沼ボート場クラブハウス
（登米市）

油麩丼・はっと汁
（登米市）

伝統芸能伝承館「森舞台」
（建築家隅研吾氏設計）（登米市）